

## 2023年度 第2回鋼材規格三者委員会 議事録

1. 日 時： 2023年7月26日（水）14:30～17:10

2. 場 所： ハイブリッド会議（対面：鉄鋼会館701室+Web：Teams）

3. 出席者：（敬称略）

委員長：榎（東京大学）

副委員長：緒形（物質・材料研究機構）、田中（東京理科大学）、藤原（EMF 応用計測）

委 員：相川（日本水道協会）、沖（建築研究所）、小野（日本分析化学会）、

小野田（日鉄SGワイヤ）、河口（不二越）、熊井（日本検査キューエイ）、

栗原（日本伸銅協会）、桑原（東京農工大学）、後藤（大同特殊鋼）、酒井（神戸製鋼所）、

桜井（日本鋼構造協会）、種物谷（高压ガス保安協会）、堤<sup>代理</sup>木下（日本規格協会）、

富永（三菱重工業）、中澤（JFEスチール）、林（元理化学研究所）、

藤井（日本試験機工業会）、藤田（栄）（北海道大学）、

藤田（慎）（日本金属継手協会）、松本（日本海事協会）、荒井（日本製鉄）、

森山（日本アルミニウム協会）、山口（九州工業大学）、山田（東京大学）

（委員長・副委員長・委員計 28 名）

欠 席：近藤（日産自動車）、富山（土木研究所）

幹 事：玉田（鉄鋼連盟）

関係者：伊藤（実）（経済産業省）

（関係者計1名）

事務局：越川・寺澤・井田・山本・齊藤・田谷・松本（鉄鋼連盟）

（事務局計7名）

### 4. 議題及び配布資料

#### 1) 報告事項

資料 1-1：2023 年度 第 2 回鋼材規格三者委員会名簿

資料 1-2：2022 年度 第 4 回～第 6 回・2023 年度 第 1 回鋼材規格三者委員会議事録

資料 1-3：2022 年度事業報告及び 2023 年度事業計画

#### 2) JIS 規格審議

<改正>

資料 2：JIS G 0404 鋼材の一般受渡し条件

資料 3：JIS G 0416 鋼及び鋼製品－機械試験用供試材及び試験片の採取位置並びに調製

資料 4：JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材

資料 5：JIS G 3106 溶接構造用圧延鋼材

資料 6：JIS G 3119 ボイラ及び圧力容器用マンガンモリブデン鋼及びマンガンモリブデン  
ニッケル鋼鋼板

資料 7：JIS K 6744 ポリ塩化ビニル被覆金属板及び金属帯

資料 8：JIS G 4401 炭素工具鋼鋼材（追補 1）

- 資料 9 : JIS G 3461 ボイラ・熱交換器用炭素鋼鋼管
- 資料 10 : JIS G 3462 ボイラ・熱交換器用合金鋼鋼管
- 資料 11 : JIS G 3463 ボイラ・熱交換器用ステンレス鋼鋼管
- 資料 12 : JIS G 3464 低温熱交換器用鋼管
- 資料 13 : JIS G 0558 鋼の脱炭層深さ測定方法（追補 1）

<制定>

- 資料 14 : JIS G 1212-1 鉄及び鋼－けい素定量方法－第 1 部：二酸化けい素重量法
- 資料 15 : JIS G 1212-2 鉄及び鋼－けい素定量方法－第 2 部：硫酸アンモニウム鉄（Ⅱ）還元モリブドけい酸青吸光光度法
- 資料 16 : JIS G 1212-3 鉄及び鋼－けい素定量方法－第 3 部：アスコルビン酸還元モリブドけい酸青吸光光度法

<廃止>

- 資料 17 : JIS G 1212 鉄及び鋼－けい素定量方法

## 5. 議事内容及び結果

委員・関係者交代の紹介、議題・資料の確認及び榎委員長のご挨拶の後、以下の議事が進められた。

- 5.1 幹事から、委員会名簿及び 2022 年度第 4 回～第 6 回及び 2023 年度第 1 回鋼材規格三者委員会の議事録が報告された。これらの議事録は、会議後に既に承認されており、特にコメントはなかった。
- 5.2 事務局から、2022 年度事業報告及び 2023 年度事業計画について報告された。JSS の事業規模についての確認が行われた。
- 5.3 JIS 規格審議案件の改正 12 件、制定 3 件及び廃止 1 件について、事務局から内容が説明され、以下の質疑応答があった。
  - 1) JIS G 0404 に関して、“製品仕様”が定義されているかどうかについて確認され、JIS G 0415 に定義されていることが説明された。
  - 2) 各製品規格に関して、順次、耐力及び降伏点の扱いを改正していくことが説明された。また、今後、機械的性質の記載において、N/mm<sup>2</sup>から MPa への見直しを検討していくこととした。
  - 3) JIS G 3119 に関して、表 5（機械的性質）注記の誤記（誤：Mpa、正：MPa）についての指摘があり、修正することとした。
  - 4) JIS K 6744 に関して、図 4（平たん度の測定）記号説明について、わかりやすい表現にしてはどうかとの意見が出され、見直しを検討することとした。会議後に検討を行った結果、原案のままとし、次回改正時に表現の見直しを検討することとした。
  - 5) JIS G 3461～JIS G 3464 に関して、管の単位質量について、変換係数への単位付与又は解説への記載を行ってはどうかとの意見が出され、解説に記載することとした。
  - 6) JIS G 3461～JIS G 3464 に関して、今後、超音波探傷試験実施個所の記載の取り扱いを検討するにあたって、試験規格と製品規格との関係を整理していくべきとの意見が出され、今後、内容を整理していくことを確認した。

7) JIS G 3463 に関して、箇条 5（製造方法）b)の本文表現を見直してはどうかとの意見が出され、修文（原案：表面スケール、修正後：表面のスケール）することとした。  
上記の他、改正・制定 JIS 案は、規格ごとのコメントテンプレートに記載されたとおり、修正することとし、改正 12 件、制定 3 件及び廃止 1 件は、いずれも承認された。

#### **5.4** その他

幹事から、2023 年度第 3 回鋼材規格三者委員会は、12 月 20 日（水）午後に、ハイブリッド会議として開催することが説明された。なお、必要に応じて、臨時案件についての書面審議を行うことを確認した。

以上